



退職しましたが、本人がどうしたらよいでしょう？

事例紹介

アルツハイマー病の診断を受けたBさん、奥さんもうつ状態に…

Bさん(男性)は電気工事の会社に勤め、現場で働いていた55歳のころ、仕事先から会社に戻れなくなったり、仕事上の失敗が重なったりして、家族に相談なく退職してしまいました。その後医療機関でアルツハイマー病の診断を受けたBさんは、元気がなく無口でした。奥さんは、Bさんの病気、経済的な不安に加え、自分自身もうつ状態になってしまいました。さらに「仕事がしたい」と思い詰めるBさんにどう対応していいのかわからなくなりました。ハローワークで紹介された会社に就職しましたが、残業が多く、体力的に無理ということで、1週間で退職し、「もう仕事はできない」と落ち込んでしまいました。仕事以外に趣味もなく過ごしてきたので、何をしたらよいかわかりません。



退職した後も働きたい、
あるいは経済的な理由で働かなければならない場合の相談は、

復職を考えている場合

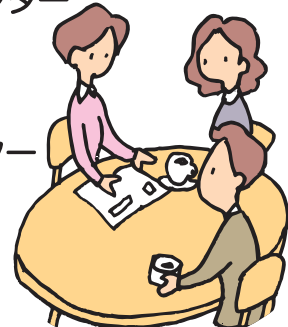
- 医療機関(メディカルソーシャルワーカーなど)
- 障害者職業センター



再就職を考えている場合

就労に必要な知識を身に付けたり、ジョブコーチなどの制度を利用できます。

- 障害者職業センター
- ハローワーク
- 障害者就業・生活支援センター



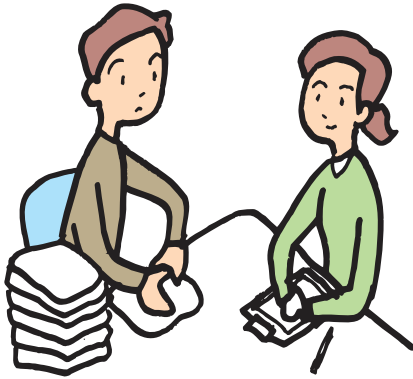
「仕事をしたい」といいます。

働く意欲を保つには、さまざまな方法があります。

就労継続支援事業所(障害福祉サービス)での就労はそのうちの1つです

《就労継続支援事業》

障害者総合支援法によるもので、A型(雇成型)とB型(非雇成型)に分けられます。どちらにも、職業指導員や生活支援員がいて、仕事の指導や生活支援を行います。



A型は雇用契約に基づく就労の機会を提供する場所であり、一般就労に近い環境です。B型は就労より訓練やリハビリを目的とした日中活動の場ですが、作業量に応じて一定の報酬が支払われます。

事例紹介

就労継続支援事業所で働く

Bさんは、病院のソーシャルワーカーの勤めで、就労継続支援事業所で働くことになりました。記憶力や計算などは困難な面がありますが、仕事への意欲はあり、自信の回復が見込めると考えられたためです。

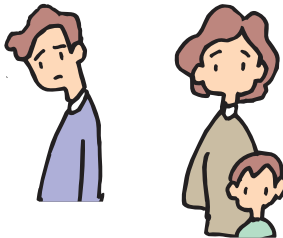
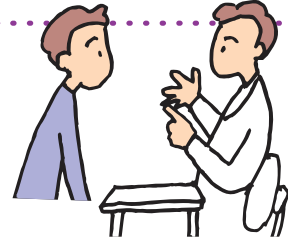
就労継続支援事業所では、若年性認知症の人を受け入れるのは今回が初めてであり、職員にも他の利用者にも戸惑いはありましたが、ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、体験利用から正式利用へとつながっていきました。Bさんの仕事は、病院や介護施設で使うリネンの回収・納品、洗濯、タオルたたみなどです。元の仕事とは全く違うことなので、事業所では、本人のプライドにも配慮して対応していきました。





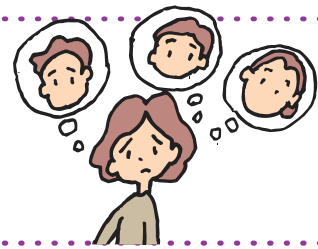
若年性認知症とは どんな病気なのでしょう？

Aさんは60歳でアルツハイマー病と診断されました。認知症は、一般的には高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」といいます。



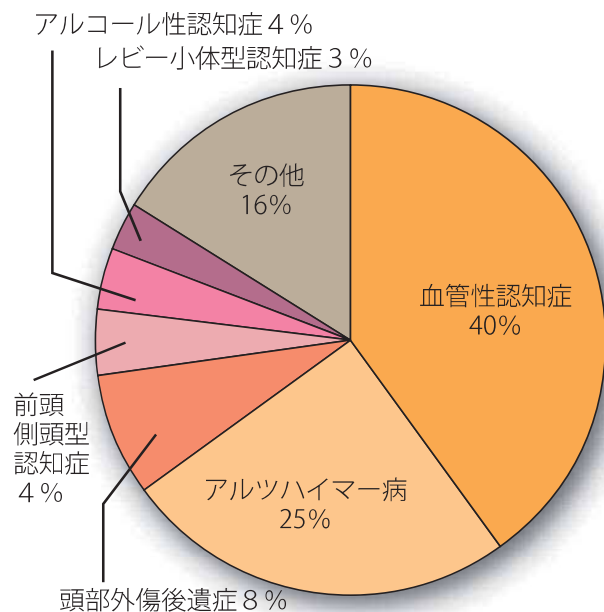
本人や配偶者が現役世代なので、認知症になって職を失うと、経済的に困ることになります。また、親の病気が子どもに与える心理的影響も大きく、教育、就職、結婚などの子どもの人生設計が変わる場合もあります。

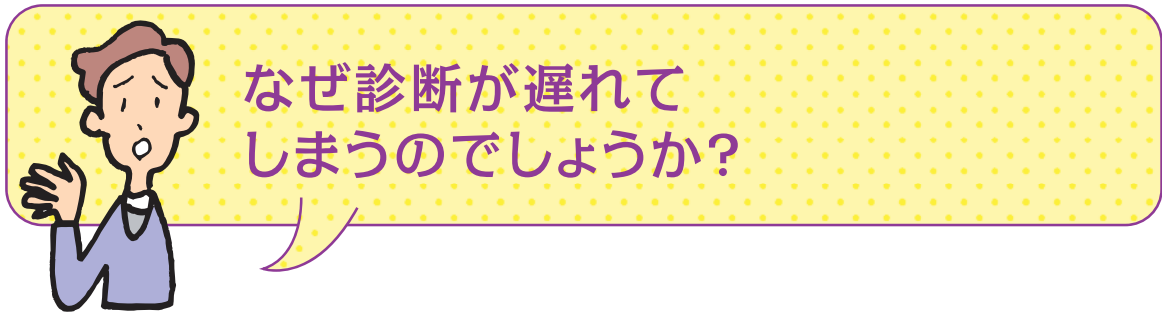
本人や配偶者の親の介護が重なる場合には、介護負担がさらに大きくなります。介護者が配偶者に限られることが多いので、配偶者も仕事が十分にできにくくなり、身体的にも精神的にも、経済的にも大きな負担を強いられることになります。



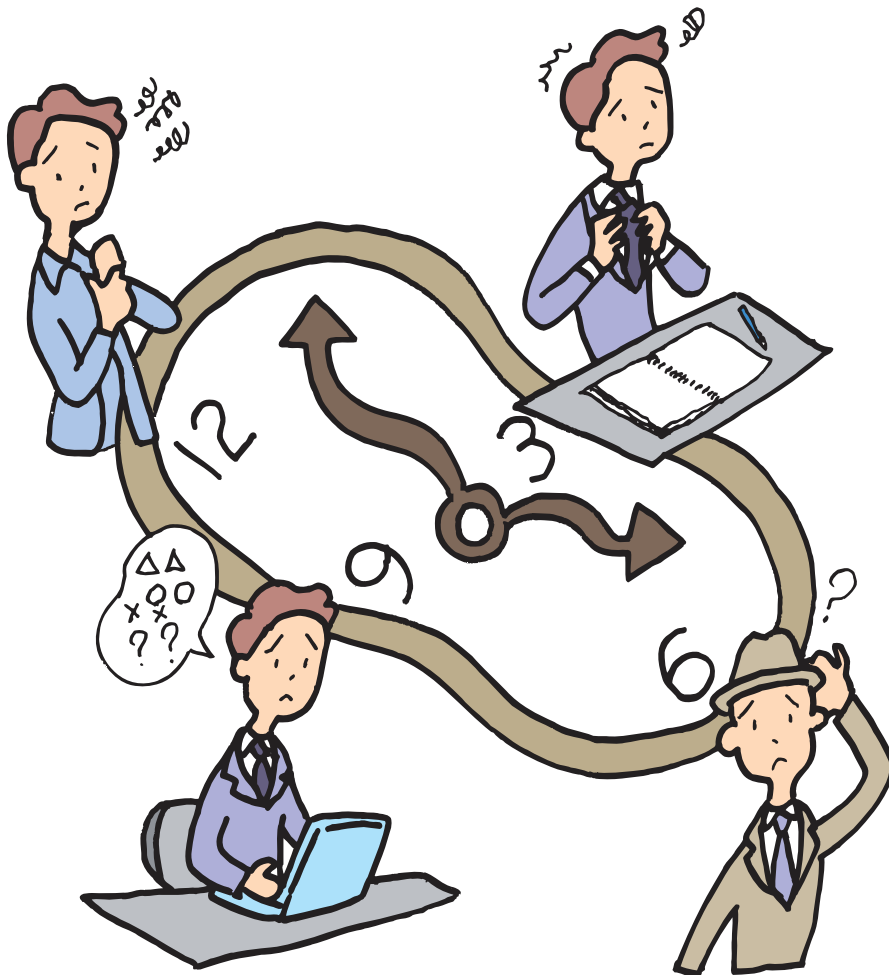
全国の若年性認知症者数は約37,800人です(平成21年3月発表)。認知症高齢者は、現在約460万人以上(平成25年3月報告)ともいわれているので、それに比べれば少ない数です。高齢者の認知症は女性に多いのに比べ、若年性認知症は男性に多いのが特徴です。原因となる疾患は、血管性認知症が40%と最も多く、次いでアルツハイマー病(25%)です。発症年齢は平均で51.3歳であり、約3割は50歳未満で発症しています。発症から診断がつくまでに時間がかかる場合が多いといわれています。

若年性認知症の原因となる疾患





若年性認知症の場合、多くの人が現役で仕事や家事をしているので、認知機能が低下すれば、支障が出て気づかれやすいと考えられます。しかし、実際には、仕事でミスが重なったり、家事がおっくうになったりしても、それが認知症のせいだとは考えもしません。疲れや、更年期障害、あるいはうつ状態など他の病気だと思って、医療機関を受診します。誤った診断のまま時間が過ぎ、認知症の症状が目立つようになってからようやく診断された例も少なくありません。



なぜ診断が遅れてしまうのでしょうか？

! 65歳未満の人も認知症になる場合があることを理解してください。

